



日時：2024年4月19日（金）17：45～19：35

場所：藤田医科大学 3号館 6F643、Zoom

参加者：ふじかんメンバー8人

浦添看護学校（3人）

愛知県立総合看護学校（7人）

ファシリテーター：朝居

タイムキーパー：東



開催前：各校でカメラや音声調整中

勉強会は二部構成で実施した。

第一部では、テキスト『協同学習ツールのいかし方ー看図アプローチで育てる学びの力ー』第3章「協同学習で未来を読み取る」の「落口」の写真を使い、看図アプローチを実施した。第二部では、全国看図アプローチ研究会公式ホームページ【ビジュアルテキスト・教材提案シリーズ】オオアカゲラの動画教材を見て、「これで授業をするなら？」をテーマに話し合った。

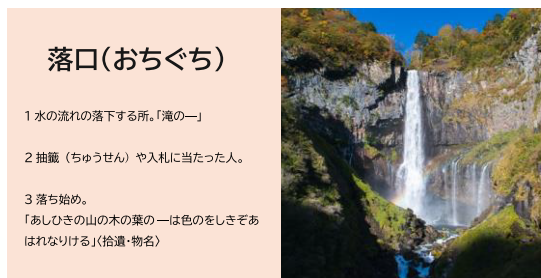
## 1. アイスブレイク

新規参加者が多かったため、自己紹介を行った。一人1分で、所属、氏名、氏名の由来、今日の抱負について、ラウンドロビンで話した。氏名の由来をきくことで名前の漢字がわかり、特に名の場合、命名の言われをきくこともでき、名前を憶えやすかった。

## 2. 看図アプローチ「落口」

まず、写真に写っているものをラウンドロビンであげていった（変換）。「落口（おちぐち）」と「三角形のコンクリート」と表現は違うが同じものがあげられた。そこで、「落口」に関する辞書的意味を紹介した。

写真に写る2つの三角形の物体が落口と呼ばれる「水を落とすもの」であることを共通認識（要素関連付け）したうえで、次にこの落口がどのように使われるのかをイラストで描くことにした（外挿）。描かれたイラストはさまざまであったが、落口を三角形になるように立てて、水が流れるようにしたところは共通していた。この後、テキスト掲載の完成に至るまでの写真を見て理解を深め、最後に落口の完成版を見た。参加者の中に農家出身者が居て、落口の説明をしてくれたことで、さらに納得できた。驚くことに、テキスト第3章の授業が再現された。（当初はLTDでやろうとしたが、当日看図アプローチをすることに変更した。落口の看図アプローチにより、まさにテキスト第3章が再現され、第3章のポイントが全て体験できた。）



外挿：落口



参加者からは「どんどん知りたくなる」「知ったことを話したくなる」「楽しい」という発言が出た。



※「オオアカゲラ」の動画は公式YouTubeチャンネルにて配信中!

### ■ 3. オオアカゲラの動画教材※「これで授業をするなら？」

オオアカゲラの動画教材を見て、「これで授業をするなら？」を個人思考（2分）

➡全体思考で実施した。以下、授業のアイデアを示す。

- アカゲラの想い。アカゲラはなぜこうしているのか？
- アカゲラのかつぎの能力のすごさから、子どもの能力のすごさを考える
- このビデオを使い（テロップを消して）、「人を励ますには」のストーリーを考える
- 巣作りから、看護の環境整備に結び付けて考える
- アカゲラの生態から、人体機能について考える
- 物事を成し遂げるとは？を考える。小さな鳥がつつくことで、虫が見つかる（食べる）、つがいができる、最後は木が折れる（!）。コツコツ努力をしたら大きなことを成し遂げられる⇒国家試験に合格
- 執念。何度も同じことをすれば達成できる
- 医療安全。つづくのに集中していると敵が来るかもしれない。1つのことにとらわれていると気づかない
- アカゲラの体の使い方からボディメカニクスを考える。くちばしの使い方、コツ

### ■ 4. 振り返り「今の気持ち」の表現

テキスト p57 ○を使って今の気持ちを絵にした（個人思考）。その後、各グループから1人だけ発表してもらった。ニコニコしている絵、卵からヒヨコが生まれる絵等、皆で楽しく勉強できたことがとても伝わる絵ばかりであった（P3 参照）。

### ■ 5. ワークショップのアナウンス

5月18日（土）協同学習を用いた看護教育研究会

東海学園大学教授(日本協同教育学会副会長) 水野正朗先生を招聘

テーマ：「高校教育の現状と看護基礎教育への接続・協同学習の意義」

6月22日（土）日本協同教育学会オンライン講座：Zoom

第10回オンライン講座『日本の協同学習』

第11章看護教育と協同学習 緒方巧先生

ご参加お待ちしております。

次回：5月31日（金）17:45～19:45 @3-643

第4章「協同学習ツールの作り方」

ファシリテーター：中村 TK：小八重



研究会の様子

